

III

辰野金吾が手がけた日本銀行建築

日本銀行本店本館竣工に続いて西部支店を設計し、さらに1899年から1912年まで「日本銀行建築工事顧問」として、日本銀行技師の長野宇平治と共に全国の日本銀行支店建築に携わった。

辰野の下で日本銀行建築に携わった葛西萬司と片岡安は、辰野が東京と大阪に開設した建築事務所のパートナーとなった。

1. 本店本館竣工後の全国の支店建築



広島支店(出張所)
1905(明治38)年(初代)



函館支店 1911(明治44)年



金沢支店(出張所)
1909(明治42)年

木造・モルタル塗

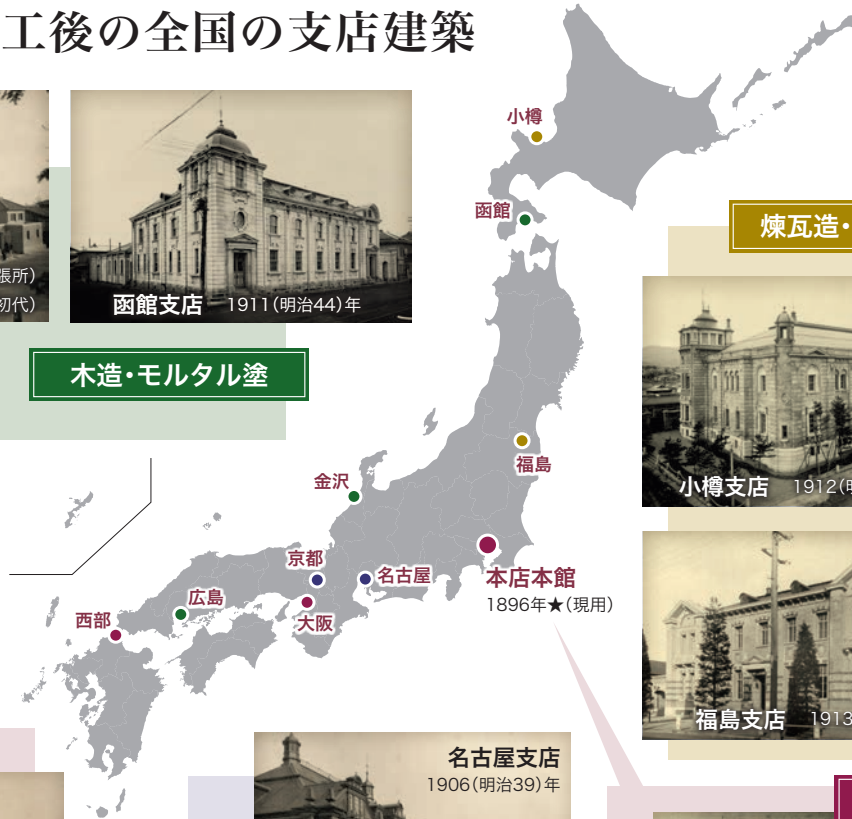


煉瓦造・モルタル塗

小樽支店 1912(明治45)年★



福島支店 1913(大正2)年



石積煉瓦造

大阪支店 1903(明治36)年(★)



西部支店 1898(明治31)年

煉瓦造
(辰野式)



名古屋支店
1906(明治39)年



京都支店(出張所) 1906(明治39)年★



石積煉瓦造

本店南分館 1899年

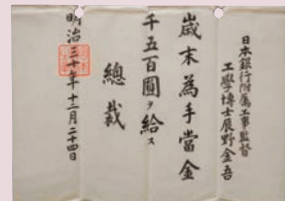
本店竣工直後に着工した南分館は、前年に工科大学を卒業した関野貞(1868-1935)と共に建築にあたった。



辰野金吾 建築工事監督給与辞令
1898年 東京大学蔵(旧辰野家資料)



辰野金吾 附属建築工事監督給与辞令
1896年 東京大学蔵(旧辰野家資料)

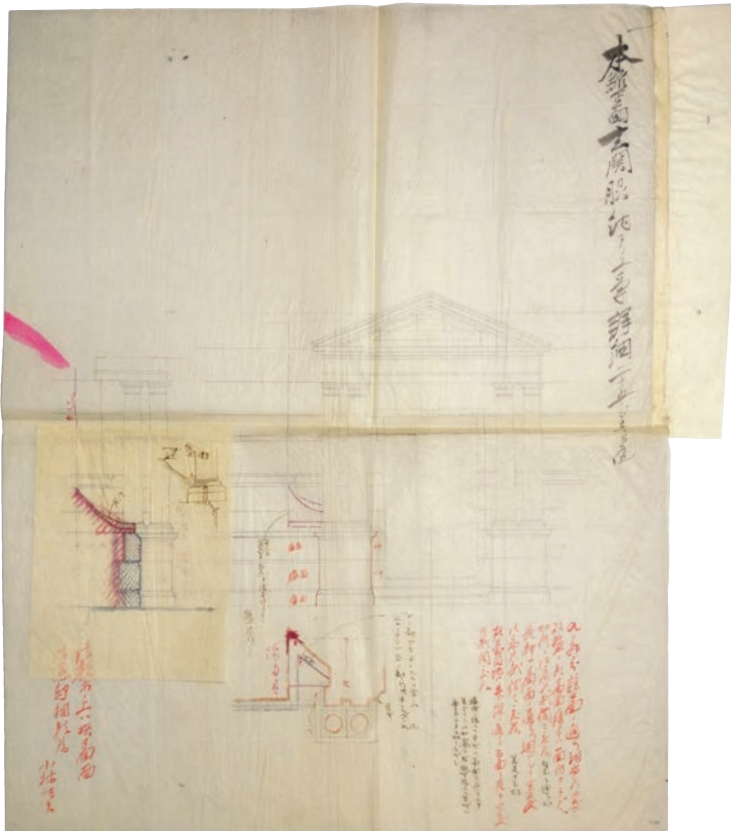


辰野金吾 附属工事監督給与辞令
1897年 東京大学蔵(旧辰野家資料)

★：現存 (★)：部分保存

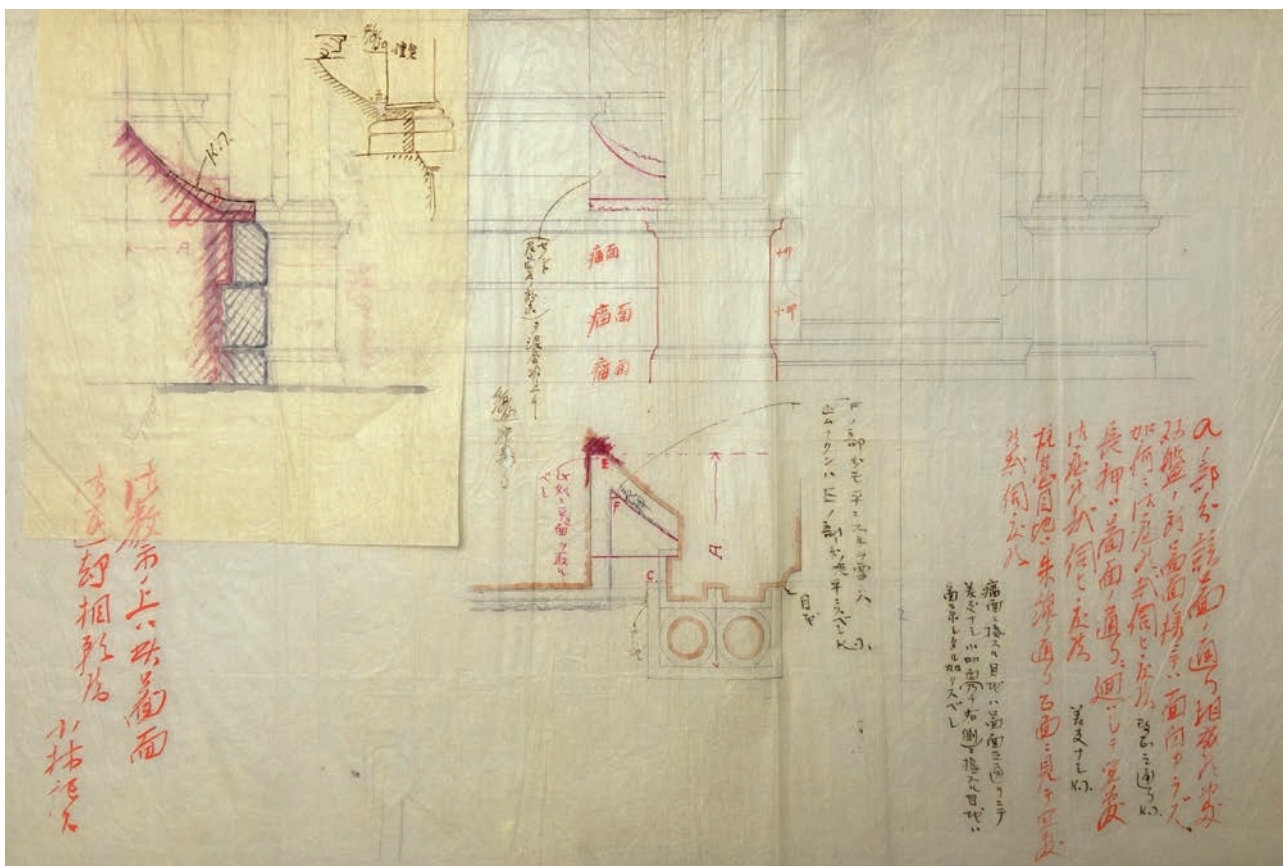
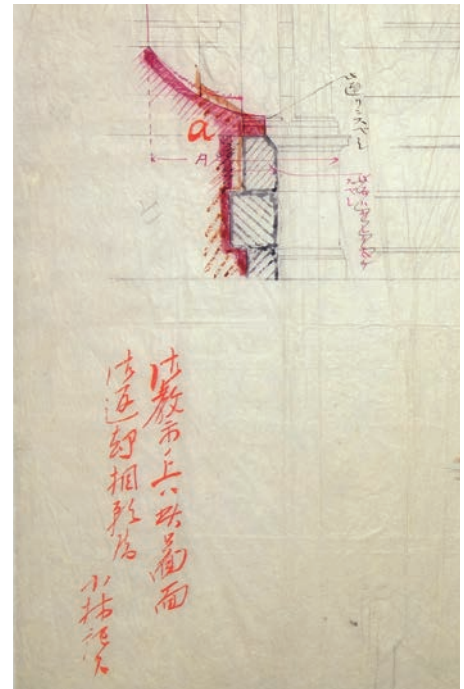
2. 西部支店と辰野金吾の関わり

本店が竣工した1896年に着工となった西部支店（門司支店）の設計について、辰野金吾は建築技手から送られてくる図面に細かく指示を出し、直接関わっていたことが図面から分かる。西部支店の新築にあたっては辰野の他、日本銀行建築技師の葛西萬司が中心となっていた。



西部支店図面への辰野金吾指示書き

西部支店の図面「本館正面玄関脇納まり工事詳細二十五分巻乃図」。建築技手小林悉が朱書きで辰野への指示を仰ぎ、辰野が黒字で回答している。



3. 現存する支店建築

辰野金吾による現存する支店建築は京都支店と小樽支店、そして外観が保存されている大阪支店である。

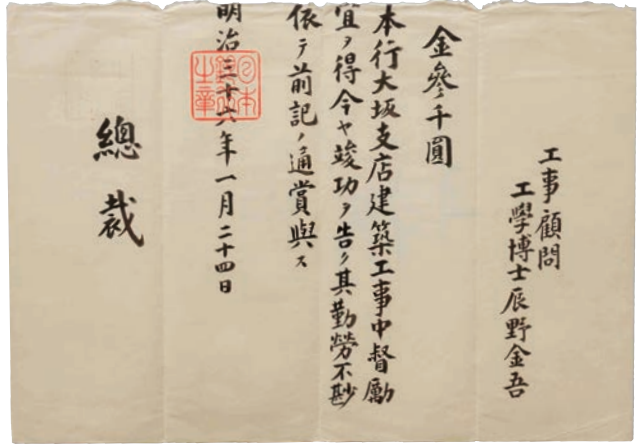
(1) 大阪支店 — 外観の保存 —

大阪支店の新店舗は西部支店に続いて着工され、辰野金吾に加え、日本銀行建築技師の葛西萬司、片岡安、長野宇平治も参画した。着工翌年の1898年には辰野は建築学会会長や東京帝国大学工科大学学長に就任し、学会・教育界両面で建築界の育成を担っていく。1899年には「日本銀行建築工事顧問」となり、一歩引いた立場で日本銀行建築をみていくことになる。1900年には退職する葛西萬司に代わり長野宇平治が日本銀行技師長となり現場を取り仕切った。
 着工：1897年、竣工：1903年、構造：石積煉瓦造。



現在の大阪支店旧館

老朽化のため外観（東・南・北の外壁、屋根）を残す形で、復元・改築工事が行われ1982年に現在の姿となった。本店同様古典様式の外観で、中央にドーム1つと小ドーム2つを配している。



辰野金吾 建築工事顧問給与辞令 1903年
 東京大学蔵（旧辰野家資料）
 大阪支店竣工時に賞与を与えたもの。



正面	玄関ホール
客溜	貴賓室



イオニア式の柱頭
 本店のコリント式とは異なりイオニア式の柱頭を周囲に巡らせている。



正面玄関

本店とは異なり金庫は別棟であったことなどから、中庭はなく正面から直接建物に入れる設計となっている。正面車寄せ部分は角柱1本と円柱2本を左右に配し、上部には日本銀行のマークがデザインされている。

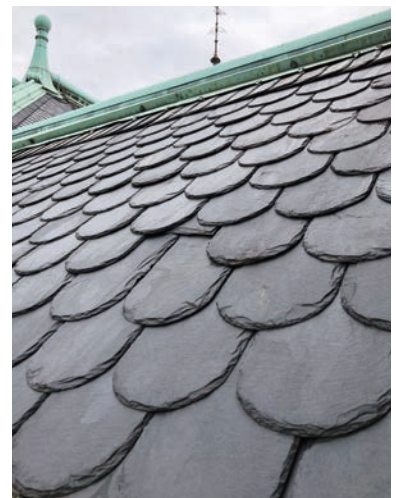


(2) 京都支店 —「辰野式」建築—

竣工当時は「京都出張所」であったが、1911年に京都支店となった。赤煉瓦の外壁に白の花崗岩を帯状に巡らしたいわゆる「辰野式」の最も早い時期の建物である。着工：1903年9月、竣工：1906年6月、構造：石積煉瓦造。現在、京都文化博物館別館として公開。国指定重要文化財（1969年）。



玄関



スレート葺きの屋根



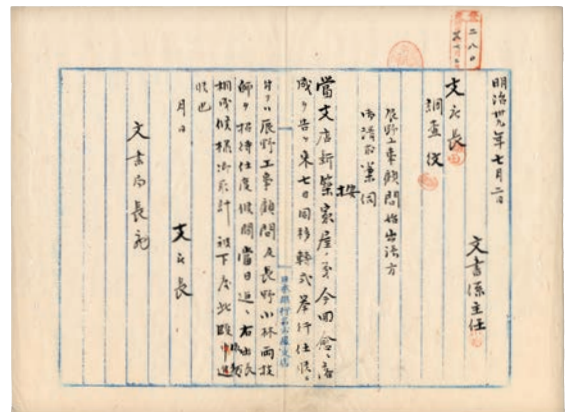
京都支店の営業場の採光

ドーマー窓からの採光を屋根裏の白い塗装の壁面の反射も利用し、営業場へ取り込んでいる。



名古屋支店

京都支店と同時期に建てられた名古屋支店も同じく赤煉瓦の外壁に白の花崗岩を帯状に巡らせた「辰野式」で、ドーマー窓を持ち、似通った外観であった。



名古屋支店移転式への辰野工事顧問、長野・小林（懋）両技師出張要請伺（案） 1906年

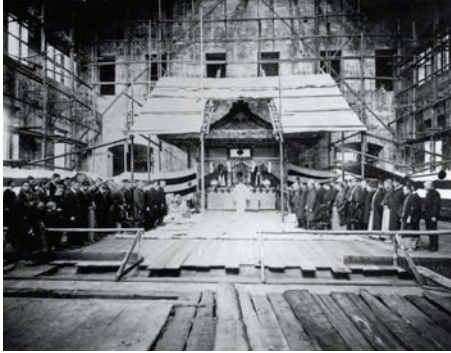


クイーン・アン様式の赤レンガ建築

イギリス人建築家ノーマン・ショウの設計による（当初ロンドン警視庁。現在はノーマン・ショウ・ビルと呼ばれる）。辰野がロンドンを訪れた頃、クイーン・アン様式と呼ばれる中世復興式の赤レンガ建築が流行していた。

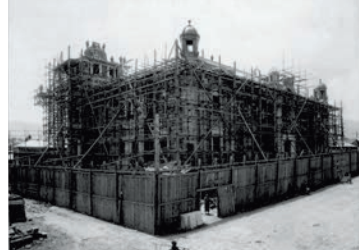
(3)小樽支店 —工部大学校一期生の街—

小樽には工部大学校造家学科の第一期卒業生4人のうち、辰野金吾による日本銀行小樽支店を含む3人の作品が現存している。小樽支店の建築は実質的には辰野金吾の日本銀行での愛弟子である長野宇平治に任せられていた。着工：1909年7月、竣工：1912年7月、設計：辰野金吾・長野宇平治・岡田信一郎、構造：煉瓦積、外壁モルタル。現在、日本銀行旧小樽支店金融資料館として公開。小樽市指定有形文化財（2002年）。



上棟式 1911年
煉瓦積の壁がみえる。

小樽支店は支店建築としては大阪支店に次ぐ費用をかけて造られており、屋根の小屋組みには初期の国産鉄骨（八幡製鉄所製）を用い、屋根下地や床板には防火のためコンクリートを打つなど、大正期の近代建築の先駆けとなる技術が用いられた。



建設中の小樽支店

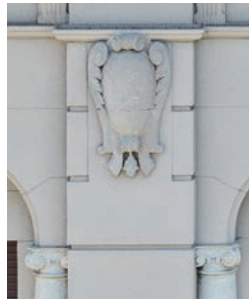


営業場・客溜

屋根の小屋組みに鉄骨を用いたことにより屋根を支える柱が不要となり、京都支店とは異なり営業場と客溜の間に柱の無い空間となった。



建屋下の煉瓦。製造に関わる符号と考えられる三本線の刻印がみられる。



イオニア式柱頭と外観装飾



竣工時の日本銀行小樽支店

正面には4つの小ドームを配している。また海側に望楼も設けられた。



工部大学校第一期卒業生 1915年撮影 辰野家蔵

辰野は中央付近に立ち、造家学科同期の曾禰達蔵（右上）、片山東熊（左下）、佐立七次郎（一番左下）がいる。工部大学校の前身工部寮は技術官僚養成を目的として設置されており、第一期卒業生はまずは各省など国の建築や建築教育に携わり、その後個人事務所を設立したり、民間企業の顧問になるなどして、近代建築をリードしていった。



日本郵船小樽支店 国指定重要文化財 小樽市総合博物館蔵
1906年竣工。佐立七次郎設計。二階建石造。樺太国境画定会議（1906年）が行われた歴史的遺構でもある。旧日本郵船（株）小樽支店として公開（現在保存修理工事のため休館）。



三井銀行小樽支店 小樽市指定有形文化財
1927年竣工。曾禰中條設計事務所設計。石積の外観であるが、構造は鉄骨鉄筋コンクリート造。
小樽芸術村 旧三井銀行小樽支店として公開。

4. 日本銀行建築の継承者長野宇平治

辰野金吾に学んだ長野宇平治は、本館完成後の1897年に日本銀行技師となり、技師長として建築工事顧問の辰野と共同で明治期の日本銀行各支店建築を担った。1912年に日本銀行を去り、自らの建築事務所時代にも本館の修復等日本銀行本支店の設計に関わり、昭和期に再び日本銀行に復帰した。辰野から学んだ古典主義建築を極め、終生自らのデザイン姿勢とした。



長野宇平治
1867-1937年

(1) 関東大震災の本館復旧工事

1923年の関東大震災の際に、本店本館は火災により大きな損傷を受けた。本館の復旧工事にあたり、その修復設計に長野宇平治が指名された。



焼失したドーム屋根



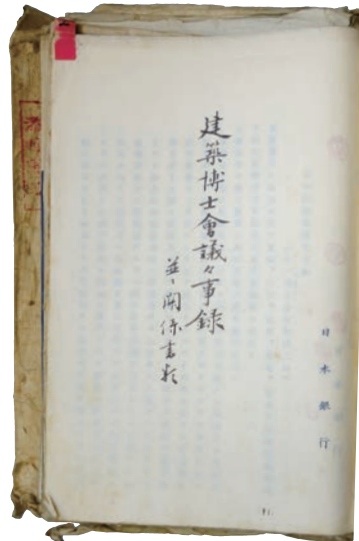
復旧工事中のドーム屋根



焼失した本館内の復旧工事

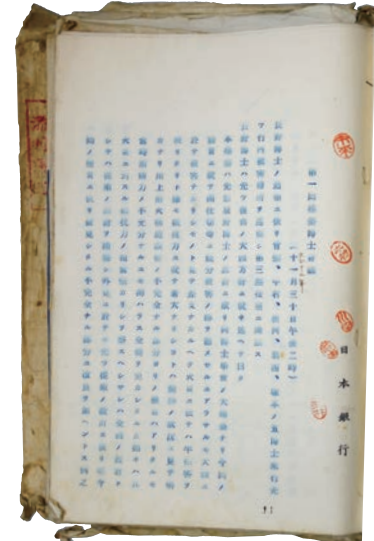


日本銀行本館修繕工事設計書
建築士長野宇平治 1924年



「建築博士会議議事録並二関係書類」より「第一回建築博士会議」1923年

長野宇平治は日本銀行本館の復旧にあたり、5人の建築博士（曾禰達藏、中村達太郎、横河民輔、葛西萬司、塚本靖）を集め修復計画を集中審議した。審議にあたり、辰野博士の「畢生の大建築」であるとしたうえで、復旧の大方針を「全体の設計としては従来の設計を踏襲し、不完全な部分に改良を加える」とした。



(2) 本店増築工事 — 辰野への畏敬の念をもって —

長野宇平治は本館復旧工事に続き、1927年に決定した本館増築（現・旧館）の設計者として日本銀行技師長に復帰する。長野は、関東大震災の苦い経験から「絶対に壊れない建物」の命題を受け、最新技術の構造・設備を取り入れたうえで、「辰野の本館」を踏襲し調和させることにこだわった。

長野は1937年に逝去し、増築3期（3号館）の竣工を見ていない。辰野への畏敬の念を示した旧館が長野の遺作となった。



現在の3号館（長野の遺作）



1号館(左・1932年竣工)と本館(右)



本館(左・1896年竣工)と3号館(右・1938年竣工)

旧館(1号館～3号館)は4階以上をセットバックさせ、3階建ての本館の外観を踏襲し、一体感のある完全な調和を図っている。なお1号館は新館の建設のため1970年に解体された。



2号館(左・1935年竣工)と1号館(右奥)

(3) 支店の建設 — 長野建築のオリジナリティー

辰野金吾を建築工事顧問とする日本銀行建築組織が1912年に解散して、長野宇平治は独自の建築活動を開始する。大正期以降、長野の設計する日本銀行支店建物に、古典主義の色彩がより強い長野のオリジナリティーがあらわれる。



岡山支店 1922年
国指定登録有形文化財 現・おかやま旧日銀ホール



神戸支店 1927年



松山支店 1932年



広島支店 1936年
広島市指定重要文化財
現・旧日本銀行広島支店



松江支店 1938年
国指定登録有形文化財 現・カラコロ工房